

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第54号 2008年6月27日(金)

発行：歴史資料ネットワーク



▲総会のようす (2008年6月7日撮影)



▲講演会修了後の深江生活文化史料館見学

目次

巻頭言

ネット企画の充実と岩手・宮城内陸地震での保全活動支援 奥村 弘…2

◆◆特集◆◆

2008年度総会・講演会開催される…3
「草の根史料館の編んだ地域史～『本庄村史』編纂を終えて～」…4

◆◆緊急特集◆◆

岩手・宮城内陸地震発生!!! …5

宮城資料ネット・ニュース 第53号…6

宮城資料ネット・ニュース 第54号…7

カンパのお願い …8

巻頭言

ネット企画の充実と岩手・宮城内陸地震での保全活動支援

～史料ネットの新年度の活動がはじまります～

奥村 弘

歴史資料ネットワークの総会も終わり、新たな年度を迎えました。今年度から、あらたに、副事務局長を置くこととなり、若手の運営委員から2名の方が引き受けてくださいました。昨年度、展開してきた水損史料ワークショップや、阪神・淡路大震災資料企画などの充実をいっそう進めるとともに、さらに史料ネットの企画や活動の幅を広げていきたいと考えております。会員の方々の積極的な参加を期待しております。またサポーターや歴史関係者の皆様には、昨年度にまして、ご支援の程よろしくお願いします。

前回のニュースレター発送以降、5月12日に中国四川省大地震が、国内でも6月14日に岩手・宮城内陸地震が発生しました。四川の大地震は極めて規模が大きく、条件も異なる中国に対して歴史関係者としてどのような支援が行えるのか、なかなかいい案が思いつきませんでした。そのような中で私のまわりでは、日本に在住する中国人の教員や学生を中心に、阪神・淡路大震災についての文献を翻訳して、中国に送るという活動が生まれはじめています。このような動きに対して史料ネットとしても、支援が可能なのではと考えています。四川省大地震支援について、読者の方々に支援についての名案がありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

一方、岩手・宮城内陸地震については、宮城歴史資料保全ネットワークが地震直後から活動を開始しています。私たちが報道で仄聞した限りでは、地震による家屋の損壊は震度に対して大きくないように思われます。もしそうならば、損壊家屋の解体が急速に進み、対応が難しかった能登半島地震に比べ、持続的な活動を行える条件が生まれていると思われます。ただしすぐに解体されずとも、地震で痛んだ家の解体は今後進んでいく可能性は高いと思われます。今回の地震での歴史資料保全活動は、このようなことから長期に及ぶ場合もありえるように思います。

史料ネットとしては、現地の宮城ネットの活動支援のための活動募金を進めていくことと致しました。現地では、6月29日には最初の保全活動が行われる予定です。その様子や、今後の保全活動について、皆様に随時にお知らせします。とくにメールニュースおよびブログ(アドレスは本後末尾をご覧ください)では、最新のニュースをお伝えしております。地震のみでなく様々な情報も掲載しています。一度いらしていただければ幸いです。

(おくむら・ひろし 歴史資料ネットワーク代表委員)

総会・講演会開催される

2008年6月7日@深江会館

歴

史資料ネットワークの2008年度総会が、2008年6月7日に神戸市東灘区の深江会館で行われた。大国正美氏の開会の辞に続き、議長として松下正和氏、書記として中野が選出され、議長によって個人会員数が145名、出席会員数が7名、議決権行使者数が79名、委任状提出者数が72名であることが報告された。

次いで議案の審議に入った。第1号議案の2007年度の活動報告として、松下正和事務局長から、2004年台風23号被災文書の整理と返却や市民講座の実施状況など、5つの項目が提示された。地域史卒論報告会の報告者・参加者層の拡大や人と防災未来センターリニューアル検証企画など、史料ネットとしての新しい活動の展開についての活動や、能登歴史資料保全ネットワークの解散にみられる課題などが報告された。続けて第2号議案である2007年度決算の報告と、第3号議案の監査報告が合わせて行われ、加藤宏文監査委員より通帳の統合や資金の会計口座間の移動に関する監査意見が提示された。これらはいずれも質疑応答を経て出席者の議決によって承認された。その後第4号議案として2008年度活動方針案、第5号議案として2008年度予算案が提示された。特に活動方針案ではこれまでの活動を継続しつつ、特に若手委員を中心に新たな取り組みを行うこと、かつこれまでの活動の総括を視野に入れることといった活動の多角化が示された。質疑応答では、震災から13年を経過した現在において、史料ネットとしての「意識」の継続をどのようにはかるかという課題、あるいは全国の史料ネットとの連携のあり方、そしてニュースレターの出版企画の提案など、様々な論点が議論された。最後に第6号議案として運営委員の選出が行われた。新設された副事務局長に就任する板垣貴志氏・中野を含む新運営委員の紹介の後、奥村弘代表による閉会の辞をもって、総会は終了した。

(文責：中野賢治 なかの・けんじ／史料ネット副事務局長)

※ なお、総会資料は別冊にて送付させていただいています。

総

会に引き続き、『本庄村史』の発刊を記念して講演会・見学会「草の根史料館の編んだ地域史～『本庄村史』編集を終えて～」を深江会館にて開催した。講演会には、執筆者の森岡秀人氏（芦屋市教育委員会）をお招きして考古学の立場から東神戸の歴史について最新の成果を、同じく執筆者の大国正美氏（神戸深江生活文化史料館副館長）には史料館設立の経緯と村史で明らかにされた地域史像を古代から近代の合併時までお話しいただいた。

はじめに森岡氏による「考古学と地域社会—本庄村史 歴史編（通史）の執筆を終えて—」と題する報告が行われた。近年の発掘成果や研究成果をふんだんに盛り込み、現時点での到達点と課題をわかりやすく提示する内容であった。次に大国正美氏により「東神戸の古代から近代史再発見—『本庄村史』と「うはら」復権をめざして—」が報告された。本庄村の歴史を語る際には、村内で完結することなく、菟原郡や山路荘といった地域的まとまりで捉えることの重要性が語られた。講演会では、考古の世界から近代に至るまでの非常に射程の広い報告内容に、地域の歴史像が浮き彫りになっていたと言えよう。

講演会終了後、深江会館に隣接する神戸深江生活文化史料館を見学した。史料館には、多くの有志の方から寄贈された数千点の民具や史料など東神戸の地域社会の歴史や生活文化の歩みを教えてくれる貴重なものが陳列されており、参加者達は感想や思い出を語り合い、大変有意義なものとなった。

講演会の最後に、森岡氏は「近年、考古少年がすっかりみられなくなった。」とコメントされていたのが印象的であった。確かに今回行った講演会・見学会の平均年齢は高く、残念ながら地元の子供達の姿はみられなかった。今後は歴史資料ネットワークとしても親子で参加できるような企画を模索する必要があるかもしれない。

(文責：板垣貴志 いたがき・たかし／史料ネット副事務局長)

講演会「草の根史料館の編んだ地域史 ～『本庄村史』編纂を終えて～」

■当日のアンケートに寄せられた感想を御紹介します。

- *なかなか他ではできない企画だと思う。よかったです (30代男性)
- *大変有意義な話でした (70代男性)
- *結構な計画でした。深江文化村にもっと触れて欲しかった (70代男性)
- *初めて参加させて頂きましたが、多くの熱心な方々のご活躍に驚きました。生まれ育った我が町に誇りを感じます。今後歴史と地域を大切にしないといけないと痛感いたしました (60代男性)
- *非常に分かり易かったです。色々問題がありますが、未来への継承を望みます (70代女性)
- *本庄村史は大変参考になった。本庄・芦屋の地区が駅舎など非常に戦略的な地域であることが解った。但し、その理由(何故、この地域)が少し不足 (70代男性)
- *講師の先生が専門の分野を時間を忘れるぐらいにいていぬいにお話しくださったので「そうなのか」とわかった。大国先生の方はちょっと身近な感じで興味深いものでした (60代女性)
- *いいひとときでした (70代女性)
- *大きな村史の内容をかいつまんで興味深くご説明いただいたのはとてもよかったです (70代女性)
- *東灘というのは明治まで寒村と思っていましたが、長い歴史があることを知りました (50代男性)
- *西神戸の史料に多く接していますので、本庄村史と似た所、著しく異なっているところを思い浮かべながら講演を聴き、とてもよい勉強をさせていただきました。もう一つは結論を断定しないで、今後の発展に観点を提供したことにとっても共鳴しました (70代女性)
- *いい企画だけにもう少し時間をかけて聞きたいと思った (60代女性)
- *自分たちの住んでいる所の事が少しでもよくわかった (60代女性)
- *詳しくとても楽しく面白かった。新しい知識を仕入れたことがとてもよかったです (60代女性)
- *地元の小中学生にもこういう内容をぜひ伝えていただきたい (60代男性)
- *隣村の旧津知村の財産区代表を致しておりますので、非常に参考になった。津知村は戦災で全て焼けているので、史料を閲覧させて頂きたく存じます (60代男性)
- *近現代は別の報告者が担当する時間があればよかった (50代男性)
- *今回初めて森岡先生の有史以前の本庄を中心として、考古資料を主体に講義が有り、有史以前の本庄の状態がよく理解出来た (60代男性)
- *とても興味深く、地域の成り立ちがわかった (50代女性)
- *森岡先生のお話。歴史を考えるための基本的な捉え方について、大変貴重なことを教えていただきました (50代女性)

◆◆緊急特集◆◆

宮城・岩手内陸地震発生！！！！

このたびの地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。また、この被害に対してボランティア活動をされている皆様に敬意を表します。

私たち、歴史資料ネットワーク（事務局・神戸大学文学部内）は、1995年に発生した阪神・淡路大震災の被災地で、歴史資料をはじめとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた、歴史研究者を中心としたボランティア団体です。私たちは、その際に、全国の歴史学会など関係団体から支援をうけて、自治体や市民と協力しながら、地域社会の民間資料の救出や文化財の被害調査などをおこなってきました。また、鳥取県西部地震や芸予地震・宮城地震や、夏の福井水害の際にも被災地における歴史資料の保全・再生に取り組んでまいりました。

私たちがこのような活動を行ってきたのは、災害が起きるとそれを契機に家や蔵に古くから置かれていた歴史資料が破棄・処分されてしまうことがよくあるからです。これまでも、私たちが駆けつけた時にはすでに歴史資料が処分された後であったということが何度もありました。

家々にはさまざまな形で家の記録や地域の歴史を伝えるものが数多く残されています。しかし、今回の地震により長く伝えられてきた古い文書や記録などがなくなってしまうとすれば、それは家にとっても地域にとっても残念なことといわざるをえません。

なお、文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料ではありません。昔の人の暮らしぶりなど、地域の歴史を知る手がかりとなるものが歴史資料です。具体的には、以下のようなものがあります。

- ◎古文書（くずした文字で和紙に書いたものなど）
- ◎古い本（和紙に書かれて冊子にしてあるものなど）
- ◎明治・大正・昭和の古い本・ノート・記録（手紙や日記など）・新聞・写真・絵
- ◎古いふすまや屏風（古文書が下貼りに使われている場合がよくあります）
- ◎自治会などの団体の記録や資料
- ◎農具、機織りや養蚕の道具、古い着物など、物づくりや生活のための道具など

これらのものは母屋や蔵、あるいはその中の箱やタンス、長持などに収められています。一見すれば紙くずやゴミのようにみえるものでも、実際には貴重な歴史資料である場合がよくあります。また、水に濡れて廃棄処分の対象とみえる場合であっても、これらのものは捨てたり焼いたりせず大切に保管下さい。早急な処置によって、修復が可能な場合があります。また、処分しないよう所有者に提言してください。

宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城資料ネット）では、すでに歴史資料の救済・保全のための活動を開始しています。右に、宮城資料ネット・ニュースを宮城資料ネットの許可を得て転載いたします。

これらの趣旨をおくみいただき、わたしたちの活動にさまざまなかたちでご協力・ご理解いただければ幸甚の至りです。どうかよろしくお願い致します。

2008 年岩手・宮城内陸地震

宮城県栗原市の現地視察を実施しました

宮城歴史資料保全ネットワークの平川です。

今朝から宮城資料ネットメンバー4人で、震度6強の激甚被災地の一つである栗原市の視察に入りました。

まず、市内の歴史資産の掘り起こし活動を展開している田園観光課をお訪ねし、今後の歴史資料調査へのご協力を依頼し、同課がお持ちの歴史的建造物リストの提供をうけました。ついで文化財保護課をお訪ねして、同様の依頼をし、今後の被災状況調査やレスキュー活動の実施の仕方などについて打合せをしました。その後、車で特に被害の大きな栗駒・花山・鶯沢・一迫地区を視察し、古民家を中心に外部から被災状況を確認しました。

壁が剥落した長屋門や土蔵、本殿が傾いた社殿、軒並み倒壊した墓石や石塔、土砂崩れなどが、あちこちに見られました。道路も陥没したり亀裂が入った箇所などが散見され、市内には災害救助用の消防車や自衛隊の車両がたくさん走りまわっていました。とくに内陸の奥羽山脈側では随所に土砂崩れがあり、温泉宿や車両が土石流に飲み込まれるという悲惨な事故が発生しております。

夕刻に戻って、地震研究者らと合同の情報交換会をおこないましたが、今回の地震は、地震の規模からみれば比較的建物の損壊度が低いようだとの観察結果が報告されておりました。ただし、局所的には大きな被害が出ている箇所もあるようです。

明日16日(月)は、震度6弱の被災地である大崎市を訪ねて、文化財担当者と相談することにしていきます。同市でも被害が大きな地域があるとのこと。その後は、やはり震度6強の岩手県奥州市の視察も実施したいと考えています。

こうした被災地視察と並行して、資料ネット事務局では、被災地の自治体史や文化財調査報告書などをもとに、被災地の歴史資料所在リストを鋭意作成中です。今回は被災範囲が広域に及ぶためにリスト作成も大変ですが、資料ネットの院生会員の方々のご協力を得て進めております。

歴史資料の保全活動にあたっては、被災者の方々のご心情に配慮しつつ、また地元の行政や文化財・歴史関係者の方々と十分に意思疎通をはかりながら実施することが必要ですので、慎重に状況を見極めながら、保全活動の段取りを組み立てていくことにしています。

被災地全体の状況把握をしたうえで、保全活動・被災状況調査の日程等について、地元の関係者と協議を進めていくことにしております。具体化しましたら、ご案内いたしますので、それまでしばらくお待ちください。

2008年岩手・宮城内陸地震

宮城県大崎市の視察報告とカンパのお願い

宮城歴史資料保全ネットワークの平川です。

本日は宮城資料ネットメンバー2人で、震度6強の大崎市に視察に入りました。

まず、同市文化財保護課長、同課長補佐から、市内の状況について伺いました。

同市の化女沼にある埋文センターの屋根が落ちたので、その対策に手を取られていること、有備館の建物に大きな亀裂が入っていること、市内の被害は鳴子地区と田尻地区、古川の北部が大きく、他地区はそれほどでもないこと、指定文化財の確認はできたが、未指定文化財については十分に把握できていないこと、といった情報をいただきました。

また今後の被災状況調査については、被災者の生活が落ち着いた段階に実施する方向で検討することになりました。

その後、鳴子・鬼首地区、古川北部、田尻地区などを視察してまいりました。鬼首地区では土砂崩れで通行制限されている箇所がいくつかありましたが、鳴子地区では建物被害はそれほどではなかったようです。古川北部や田尻地区では、神社の石鳥居が落ちたり、転倒した石塔などが各所に見受けられました。また軒瓦が飛んだり、土蔵の壁が部分的に崩落した旧家なども数軒ありました。被害は局地的なようです。

夕刻に仙台に戻り、やはり震度6強の岩手県奥州市の文化財担当者にご連絡を入れ、市内の様子をお尋ねしました。それによりますと、胆沢地区と衣川地区が震度6強だったが、震度の割には建物被害の情報が入っておらず、いまのところ半壊が1軒だけのようだったとのことでした。その他の地区でも揺れの割には被害が少なく、文化財関係の被害情報は、いまのところ一件もはっていないということです。また文化財担当者は全員、生活復旧支援に動員されているということでしたので、被災調査の実施の可否等については、一段落したところで、改めて相談させていただくということになりました。

昨日の視察報告とあわせ、震度6レベルの被災地の状況は、おおむね以上のように把握できました。山間部での土砂崩れは死亡者を生み出すほど大きなものとなっていますが、それ以外の地域での被害は局地的で、建物の損壊もそれほど大きくはないようです。昨日発表された地震研究者の調査結果も、同様のものでした。

視察では建物内部の散乱状況までは見ることはできませんでしたが、諸情報を総合的に判断すると、資料レスキューが必要な対象は現在のところ確認できませんでした。ただし、宮城県内の栗原市と大崎市については、被災状況調査を実施したほうがよいと思われます。これについては、対象地域の歴史資料所在リスト

の作成を急ぎながら、地元自治体の担当者や文化財保護委員の方々と日程調整を進めていくことにしております。

日程は未確定ですが、地元との調整次第では第一回目の被災状況調査は、6月下旬から7月上旬の週末に実施することになるかもしれません。具体化しましたら、ご案内いたしますので、それまでしばらくお待ちください。

なお、被災状況調査が何回必要になるのかは現段階では分かりませんが、これまでの経験からみて、相当の資金が必要になるものと思われます。

つきましては、大変恐縮ですが、これらの活動資金について、皆さまからのカンパをお願い申し上げる次第です。下記の口座にお振り込みをいただければ、ありがたく存じます。

◆宮城資料ネット カンパの振込先

このたびの岩手・宮城内陸地震における歴史資料の被災状況調査の活動資金として、皆さまからのカンパを御願い申し上げます。振込先は下記の通りです。

○ゆうちょ銀行振込口座 02280-2-89604

○銀行振込

七十七銀行（銀行コード：0125）本店営業部（店コード：100）

普通 7708025

口座名義は、いずれも「NPO 法人 宮城歴史資料保全ネットワーク」です。

<事務局・連絡先>

特定非営利活動法人 宮城歴史資料保全ネットワーク

〒980-8576 仙台市青葉区川内 東北大学東北アジア研究センター 平川新研究室気付

電話・FAX 022-795-7693/7546

メール office@miyagi-shiryounet.org ホームページ <http://www.miyagi-shiryounet.org>

※本号とともに、振り込み用紙を同封させていただいています。ご利用下さい。
ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。（歴史資料ネットワーク）

■2007年度中にカンパ・寄附をお寄せいただいた方々

石澤和夫・石原由美子・奥山脩二・北原糸子・白石健二・飛田雄一・日野辺地区自治会・
保坂智・松本靖史（五十音順・敬称略）

ありがとうございました。

史料ネット NEWS LETTER No.54 2008年6月27日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565（開室時間 平日の午後1時～5時）

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp

史料ネットブログ開設しました!! http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net